

「祖父からもらった宝物」

岩手県 梨子木まゆみ

私の祖父は、昔大工として働いていた。そのためか、とても男気があり優しい性格だった。私はそんな祖父が大好きだった。

小学校4年か5年の正月、私は祖父からある相談を持ち掛けられた。それは、1年間玄関の靴の整理を続けたら1万円やる、というものだった。私にとって1万円は、もの凄い大金。こんな大金をもらえる機会はそうそうないだろうと思い、私は二つ返事で引き受けた。しかし、それまで靴をそろえたことなどほとんど無かった私は、最初のころ整理することを忘れ、祖父に「靴は？」と注意されたこともあった。それでも、「1万円のため」と思い、靴の整理を続けた。何ヶ月か過ぎたころから、玄関の靴が綺麗にそろっていないと、なぜか落ち着かず、気になるようになった。そうして私は、1年間靴の整理をやり通したのだ。そして祖父は、約束通り私に1万円をくれた。私は1万円をもらえたことは勿論うれしかったが、それよりも、1年間継続したことを誉められたことのほうが、ずっとうれしかった。

約束の1年が過ぎたあとも、私は気が付くと靴の整理をするようになっていた。最初はお金をもらうために始めたことだったが、知らず知らずのうちに、靴の整理は私の習慣となっていたのだ。そのとき、「継続は力なり」という言葉を実感した。私は、玄関が綺麗だと、心がすっきりするようになるようになった。また、来客にも良い印象を与えられると思う。祖父は、「良い習慣は一生の宝だ。それが1万だったら安い」と言っていた。私は祖父から良い宝物をもらったと思った。

その祖父は、一昨年膵臓癌で亡くなった。私は今も靴の整理を習慣として行っている。亡くなった祖父が私にくれた宝物を、これから先、一生、大切にしていこうと思う。